

493 中央大学経済学会例会

〔『法学新報』第28巻4（318）号 大正7年4月1日〕

○中央大学経済学会例会 本学経済学会は去月十六日午後より
会長桑田博士出題に係る「米価調節の方法如何」に付き例会を
開催せり、此日風雨烈しかりしも斯学に熱心なる我学生諸君の
来会する者頗る多数に上り定刻会長桑田博士並に中島（信虎）
講師の臨席あるや佐藤甚治郎君先づ登壇本論題は現下の実際問
題として世間幾多の学者、実家等の議論あるも遺憾なから未
た徹底的解決方法を論せし者あるを聞かす希くは諸君の真摯な

る研究の結果を発表せられんことを望むとて開会の辞を述べ次に一年横山貞輔君立つ緒論として宇宙の森羅万象皆是れ神意に成るとして神意説の要旨を説き営業自由の原則を曲解して暴利を貪る奸商を嚴重に処罰すべく調節策として農民の生産費軽減、収獲の増加、取引所売買に於ける仲買人の奸策を防遏する為め間接取引所設置の必要及び購買組織の奨励、関税政策の改善等を挙げ且国民は安価生活法に依り米の代用物を喰ひ尚ほ世俗に齷齪せむより座禪を組み仏果の解脱を得よと叫ぶ三年森西敏夫君は大隈内閣當時に於ける米価調節の不結果に終りし事を引例して外米直輸入、政府専売の不適當なるを主張し米価の最大価格及び最小価格を法定し以て米価の暴騰暴落を防ぐに如かしと論ず三年片山隆三君は米価調節の先決問題として米価の標準を求めは標準なくして之か調節を為さむとするは迂愚も甚し且米価標準の決定は生産者、商人、消費者等各場合に依り異なるか故に其算出困難なり政府は調節調査会の組織に宜敷植物専門學者を加ふへしと説き更に米の營養価値に論及して玄米食を奨励し尚ほ米の不足を感じる時は年産五百万石に余る満洲大豆の油粕を研究して食用に供すへしと結び二年多賀辰三郎君は米価調節の方法に付き応久恒久の二策あり其実行にも暴騰暴落の各場合あり米価の変動に依る影響は頗る大なるものあるか故に其調節は慎重なるを要すと前提し取引所売買に於ける調節に關し説明を加へ輸送機関の巧妙なる運用に依り供給を豊富にし一面通貨の引締を計りて調節を為すべく且政府は米価調節に關する事項は宜しく秘密主義を廢して国民に不安を感せさらしむること

を要すと説き頗る詳細を極む次に研究科の中村弘君登壇米価騰貴の原因を論し且取引所に於ける巨額の売買は殆ど空米取引にして徒に米価の変動を來す源泉地に過ぎず故に之を廢止すへし米価の一定を維持する為めに国家は米の専売を為すべく又一法として酒造税に依りて調節すへしと力説す二年西尾顯君は大体多賀君と同一の意見を述べられ更に政府は米の関税問題に付き態度を決せざるは徒に中間商人に利用せらるるのみ宜敷其態度を決すべく暴利取締令、般舶管理令の適用を嚴重ならしむべきことを説き且農業倉庫と農民の教化問題に論及す斯くて中島講師登壇劈頭先づ諸君に教を乞ふとの前提の下に吾人は生活に對し感ずる事痛切なるものあるか故に吾人を本位として米価調節を論ずるは危険なり故に之を避く唯幾多の疑問あれば之か教を乞はむとす先づ物価騰貴とは何を意味するや現在に於ける米価は果して高価なりや米価か二十五六円なるか故に高価なりとは言ひ難かるへし英国に於ける物価と比較して物価の漸騰を為すは我國の地位漸く世界的にならんとするに在り且英国に於て *Minimum price*. *Maximum price*. の決定に付き議論盛にして容易に決定せざりし事を述べ又米価の調節とは生産者消費者の二者に好都合なる方法を施すを意味するものならんと説き次て近刊の「ジャツパンクロニクル」紙上に掲げられたる我邦取引所に關する論文を引用せられ取引所改善の必要を力説して降壇せらる會長桑田博士は満場拍手の裡に登壇學生の各研究に對する批判あり外米直輸入、政府専売に關する博士持論の一端を披瀝せられ生産地に於ける「シンヂゲート」及び「トラスト」に對

抗策として生産地に拓殖会社を設置すへしとし又調節策として酒醸造官営の事に論及し其他研究上幾多教示せらるる所あり終りて茶菓の饗応に移り会員の五分間演説を試み大に気焰を挙げ富田謙太郎君の明笛の独奏及び口笛の妙技に満場を酔はしめ竹村熊次郎君の閉会の辞あり其喝采裡に散会せしは十時頃なりし

(委員報)